

令和四年 消防出初式

日時 令和4年1月9日(日)
9時00分から
場所 川越市役所
南側来庁者用駐車場

次第

- 閉式
 - 国旗掲揚
 - 式辞
 - 議長あいさつ
 - 団長あいさつ
 - 祝辞
 - くすだま割り
 - 木遣りとはしご乗り
 - 消防車両分列行進
 - 一斉放水
 - 手締め
 - 国旗降納
 - 閉式
- 管理者
組合議会議長
川越市消防団長
来賓
川越市消防団
消防署
川越薮組合・木遣保存会



消防出初式は、新春を告げる風物詩として、各地で恒例の行事となっており、消防車両のパレードや消防部隊による一斉放水などを披露します。その中であって、粋な半纏はんてん姿がくりひろげる木遣りきややはしご乗りは、昔の伝統技術や情緒を今に残し、当時の火消しの心意気を見る人に伝えてくれています。

消防出初式の由来

明暦3年（1657年）の大火（振り袖火事）を期に、旗本の率いる定火消じょうびけしが編成され、万治2年（1659年）に顔見せ儀式が行われました。これが出初式の始まりとなり毎年続けられましたが、江戸幕府の崩壊と共に廃止となりました。

明治7年に警視庁ができて、その中に消防組が設置され、翌8年から出初式が復活しました。

昭和23年に消防は警察組織と分かれましたが、出初式はそのまま引き継がれ現在に至っています。

木遣り歌とはしご乗り

大木などを運び出すときの掛け声や音頭取りの歌が起源になったともいわれている木遣り歌は、江戸時代の中期、粋な鳶職とびの人たちの間で盛んに歌われていました。元来建築そのものが慶事であったことから、木遣り歌もおめでたい歌とされてきました。やがて町火消まちびけしが誕生したとき、その中心となったのが鳶職の人たちであったため、木遣りは町火消に伝承され、それが以後の組織の変遷につれて受け継がれました。現在は消防組織から離れています。

はしご乗りの起源については定かではありませんが、延宝年間（1673~1680年）のころの見世物の一つに「はしごさし」という言葉が見られますので、このころから行われるようになったのかもしれませんが。出初式の発端となった万治2年の上野東照宮前で行われた「出初式」では、すでに神前で披露されていますので、歴史も古く長い伝統があるということになります。

本日は、川越鳶組合、木遣保存会のみなさんに木遣り歌とはしご乗りそしてまとい纏振りを披露していただきます。